

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

2 フレア五日市 中のひろば <令和7年10月6日(月)開催>

① 移住促進とクマ対策に関する課題と対応について

Q 移住について、五日市地区は子育て世代よりも上の世代の移住希望者も多い。現在の移住・定住についての情報発信内容は子育て支援を中心であると思うが、子育て支援以外の市の魅力発信にも力を入れてほしい。

クマ対策について、自然が豊かであるということでもあるが、移住希望者も気にしている。あきる野市は備えが甘いように感じる。市はどのような備えを行っているのか、アピールするような機会や、クマとの共生を望む人に向けた取組はあるか。

A 全国的な課題として、移住・定住のニーズはあるが、住まいが少ないことが挙げられる。あきる野市でも空き家は増えているが、所有者の理解が得られず、活用できないことが多い。養沢地区などで、空き家について地域の人たちと考える機会を設けている。プロモーションの方法やニーズの掘り下げについて、検討していきたい。

クマ対策については、市民の安全確保と、あきる野らしい環境保全の両立ができればと思う。

Q クマとの共生については山林整備が重要と思うが、予算はとっているのか。

A 野生鳥獣にとっての環境整備と、林業にとっての環境整備、両方の面から予算を組んでいる。山林整備については、東京都の補助金を活用している。

Q クマの出没については、山に食物がないことに原因がある。クマ対策に特化した予算をとつてほしい。

A ナラ枯れによってドングリが不足していることも影響している。動物たちの食料についても考慮し、整備が必要と感じている。

Q クマ対策について、東京都からの補助は大きいが、都は獣害対策としての山林整備より、花粉対策を重視しているように感じる。獣害対策に対する都への働きかけも必要ではないか。

A クマ対策については、東京都からの補助金を活用し、獣友会の協力を得ながら進めている。引き続き、国や都の補助金を活用して取り組んでいく。

② 野の花の減少と五日市のシャッター通りについて

Q 道路の拡張や舗装、芝刈りが原因で野の花が減少している。野の花のある景色は移住や観光にもつながるものもあると思う。フレア五日市の植栽に野の花を入れてほしいと担当課に提案し、フレア五日市のオープニングイベントで植栽ワークショップを実施した。今後も野の花を増やす取組を行ってほしい。

都の管轄と聞いてはいるが、現在、五日市街道の道路の補修中で、その過程において街路樹が枯れたり折れたりしている。補修の終了後の植栽を現行と同じツツジにするのか、他の花木にするのか、このことについて市民が一緒に検討する機会を設けてほしい。

五日市のシャッター通りが、見た目も悪く残念である。景観条例とまでいかなくとも、ある程度の秩序は守られるべきだと考える。

A 道路の補修について、街路樹をどうするかなど今後の計画について、都に確認する。

③ 五日市のまちづくりと鮎について

Q 昨年移住してきた。あきる野市について、都心に住む人はBBQのイメージしかない。

魅力的な店舗は増えつつあるが、まだ少ない。五日市全体のまちづくりに合わせたイメージで、店をつくるといった規定はないのか。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

また、今年は鮎が不漁である。昨今の気候変動によるものではないかと懸念を抱いている。

A 店づくりの規定はない。規定することで出店を抑制する可能性もあるので、他の地域の事例を研究したい。

鮎について、秋川の鮎は、今年も「清流めぐり利き鮎会」で4回目となる準グランプリを受賞した。今年は気温が高く雨量も少なかったため、鮎が大量に死んでしまったという。環境の変化や砂利による遡上阻害などもある。市内外問わず、鮎に対する関心は高まってきていると思うので、啓発活動を続けたい。

Q 例えば川越の蔵造りの町並みなど、イメージを統一して活気をつけることができると良い。

五日市は魅力的な店舗もあるが、点在することで寂れた印象になっている。

A 店舗のデザインなど参考にしたい。

Q 「鮎グランプリ」を受賞したのは、秋川の鮎なのか。

A 時期や形、場所を考慮した上で、7月初旬に戸倉周辺で獲れたものを冷凍保存し、10月の品評会に出している。これは春先に放流した鮎だと思うので、東京湾から遡上した鮎がもっと増えると良いと考えている。秋川は堰があるために、鮎の遡上が難しいようなので、都とともに研究を進めている。

④ 地域のにぎわい創出と高齢者の活躍について

Q 五日市地区は音楽が盛んである。定期的にフレア五日市で音楽会を開催したり、昨年のようにアートイベントで蔵を活用するなどすると活気が出るのではないか。また、家庭に眠っているピアノを寄贈してもらうなどして、フレア五日市にストリートピアノを設置してはどうか。

A ヨルイチでも音楽関係の出店が増えている。音楽によって、まちのにぎわいに繋がればと思う。

Q あきる野市に移住してきた。60歳を過ぎて、自分自身を「高齢者」と意識し始める人もいると思うが、都心部ではそのような人が少なかったように感じる。あきる野市にも、まだまだ元気な60~70代の方がたくさんいると思うので、やる気のある人たちが集まって、稼げるようなイベントができたら、その世代の方々が寂しい思いをせず、生きがいを持って活躍を続けられるのではないかと思い、何かできたらいいなと模索している。

参加無料のイベントが多いが、相応の参加費を払って参加してもらい、主催する側も参加する側も、それぞれが生きがいを感じられるような仕組みがあるといいと思う。

A 世代を問わず市民の皆さん生き生きと暮らせるまちづくりを進めていきたいが、イベントなど市だけで進めるのは難しいこともある。ぜひ、アイデアや提案を聞かせていただければと思う。また、実際に何か始めた際には、情報提供いただきたい。

Q 農作物の収穫から加工までを体験できる機会は、都心に住む人からニーズがあると思う。

色々とアイデアはあるが実行に移すのが難しい。ぜひ市に協力してほしい。

A 参加者の中に、農業コミュニティで活躍されている方がいるので、一言いただきたい。

(ほか参加者の方より)

40代を中心とした、農業に関わるコミュニティがあり、協力し合いながら農業を行っている。まだ実現できていないが、加工品として売るなど「稼ぐ」ことにつなげられたらという意見も出ている。こういった活動にも、興味があつたらぜひ声をかけてほしい。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

⑤ 女性の社会参画について

Q 最近移住してきた。以前に住んでいた都心に近い市と比べ、行政との距離が近い。行政主催のイベントにもよく参加しているが、昔から住む市民はあまり来ないという。

お祭りなどで男女で分かれて作業していたり、自治会の役員や行政の委員会委員が男性ばかりだったりと、古い体質が残っている部分もある。市の女性参画に対するビジョンは。

A 様々な分野での女性の参画を推進したいと考えてはいるが、女性の参画率が少ないものもある。しかし、町内会・自治会は、場所によっては女性が多いなど、地域差があるようである。祭りについても変革しており、神輿の担ぎ手や囃子に女性が増えている。

⑥ 野の花の保護について

Q 市長は鮎が好きであると思うが、私は野の花が好きである。イチリンソウがどのような花かご存じか。イチリンソウの群生は、とても珍しい。イチリンソウ、アザミなど野の花が見られることが当たり前の光景であったとしても、気がづけばなくなってしまうこともあると伝えた。野の花について資料をお渡しするので、見ていただき、当たり前にあるものが、実際は貴重なものであると再認識し、守っていってほしいと思う。

A 「イチリンソウ」の名前は聞いたことがある程度で、詳しくはないので、資料を見させていただく。